

## ワクワクドキドキ嬉しい！楽しい！大好き！しか選ばない娘との日々

令和4年3月27日

今年娘は成人式に出席し中学卒業後5年ぶりに会えた振り袖やスーツ姿の同級生。もちろん娘も朝早くから振り袖を着付けてもらい終始ニコニコで嬉しそうでした。会場に行くと話しかけてくれる同級生の中で居心地良さそうにしてる娘の顔を見て、障がいがあってもみんなと同じように幼稚園、小学校、中学校、高校で過ごしてきた本当に良かったと思いました。ワクワクドキドキ嬉しい！楽しい！大好き！を選ぶ娘がステキです！

思い返せば、妊娠3カ月から元配偶者からのDVやモラハラの中（DVと分ったのはずっと後ですが）、娘の為には両親が揃ってるほうがいだろうと思い、自分の人生は無いものとして娘の人生の黒子として生きると覚悟決めて出産しました。娘が2歳の時に私が乳がんで手術をし治療が5年、主治医から10年たたないと完治にならないと言われ、体力に自信もなくなり、辛くても逃げるより自分の責任でこうなったことを認め、覚悟を決めて娘を立派に育てることを全うしようと思いました。

娘が生まれた時も痩せていて、おっぱいもミルクも吸い付く力がなく20cc飲むのも1時間かかりました。娘はお腹の中で聴きたくないもの聞かされ心配して発育が悪くなったんだろうと申し訳なかったです。

離乳食が始まってから娘はミルクよりは食べてくれるようになり体重も増えてきました。が何となく目が合わないなと気になっていました。11か月の後期健診で初めて医師から発達の遅れを指摘され、小学生になったら支援学校で訓練するようになるかもと言われました。私が娘にできることはどんなことでもしてやろうと後期健診の帰りベビーカーを押しながら新たに決心しました。

医師から発達を促すためには色々刺激を与え、早期療育が大切と教えてもらい娘が1歳になってベブススイミングに通いました。水が好きなので怖がらず気持ちよさそうに楽しんでました。また療育園には娘が1歳9カ月の時から母子通園で毎日9時から15時まで一緒に療育を受け、親の勉強会もあり、テレビを見ることも忘れる日々でした。娘の発達のために刺激を与えなければと必死でしたが、娘はこれをしなさいと言われてもできないし、しようともせず他の障がいある子たちの中でもさらに重い障がいなんだとわかりました。娘は言葉どころか声もほぼ出さず、黙々と一人で人形遊びやおままごとをしていました。何を考えてるのか何をしてほしいのかも全て私の推測で考えるしかなかったのですが、嬉しいことや楽しい時は笑うので娘の笑顔規準で選んできました。療育園にも通いつつ、発達にいいと聞き七田チャイルドアカデミーに通ってみると、娘には会っていたようで他の健常の子供より集中して先生の話の聴いて楽しんでおり別に障がい者の中で過ごすのがいいとも限らないんだとその時気が付きました。療育で無理やりやらされるとい

は娘には楽しくないからやる気も出ないんだと分かり、一般の幼稚園のプレスクールにも週1回通ったりしました。療育園では笑わないのにそこでは同い年の子たちを見て嬉しそうに笑っていました。ワクワクドキドキ嬉しい！楽しい！大好き！がそこには有ったんだと思います。

幼稚園に入園したいと療育園の先生に伝えたら大反対され入園金を払っていたのに強引に幼稚園に断りに行かれました。仕方なく1年間はまた療育園で過ごしました。先生たちは大人しくボーッとした娘からのサインには気づいてくれず、ほったらかしでしたがね・・・。

お世話になった私の幼稚園の時の先生に、幼稚園に行きたいけどいじめられるから行かせたくないと言う人がいると相談すると「障がいがあってもなくてもいじめたりいじめられたりはどうしてもあるよ。そんなこと不安がっていても仕方ないでしょ。そんなことに負けたら駄目よ」と喝を入れてくださり決心しました。地元の幼稚園に相談に行き、障がいがあってもおむつがまだ取れていなくても大丈夫だから通わせてあげてくださいと園長先生に言って頂き入園することに決めました。療育園の卒園が近くなり、卒園後はどうするかは親が決めてくださいと言うので幼稚園に行くことを伝えると、担当の先生に「お母さんは清水の舞台ではなくて富士山から飛び降りようとしてるんですよ！飛び下りたら親子共々、木っ端みじんになりますよ！」と脅されました。でも私に迷いはなくハッキリ「はい、木っ端みじんになってもいいです。幼稚園に行きます。」と言い返しました。

晴れて地元の幼稚園の入園日ボーッとおとなしい娘が同じ年の子たちの中で目を輝かせて嬉しそうにしてる姿は今もはっきり覚えています。ジャングルジムに上ってる子のまねをしてジャングルジムの下まで行ってみたり療育園では考えられない娘のいきいきした姿に胸をなでおろしました。療育園では靴を履く練習を1人残されてしていましたができなかったのに、幼稚園に通うようになり1週間でみんなの真似をして靴を履けるようになりました。すごいことです。あんなに残されてもできなかったのに。脅されましたが、従わなくてよかったです。木っ端みじんになんかなりませんでした。

娘のワクワクドキドキ嬉しい楽しい大好きな気持ちがわかりました。みんなと過ごしたいんだとすぐわかりました。お友達もみんな優しくお母さんたちも優しく障がいあってもみんなと一緒に過ごしていいし、大丈夫なんだとわかりました。みんな優しかったです。おむつも加配の先生のお蔭ではずれました。言葉を話せない娘のために毎日ノートのやり取りもして下さり助けていただきました。もちろんワクワクドキドキ嬉しい！楽しい！大好き！の小学校に入学希望で、入学前には先に校長先生に相談し大丈夫ですどうぞ入学してくださいと言われ、幼稚園からのお友達もいて娘は楽しく過ごしました。

ただ小学校の低学年時は年配の先生の障がい児に対する配慮がなく、娘のことをわかってもらえず何度も学校に話に行ったり、教育委員会に話に行ったりその時は大変でしたが頑張ってたえましました。毎年クラス替えがありその都度娘のことを理解してもらおうのは

大変でしたが、だんだんわかっていってくださりました。とにかく娘がニコニコ楽しそうに学校でしてくれたのが何より私は嬉しかったです

娘は小学生の高学年になってやたら高校生に興味を持ち、見たら「かっこいいね」「女子高校生」「男子高校生」と言うようになりました。憧れてるようでした。その頃小学校の先生からは高校は支援学校に進むしかないと聞かされてましたので頭を抱えました。高校は行けるのか、中学入学を考えだしたころ高校も娘に行かせたいと思い調べていたら、北河内連絡会を知り支援学校だけではないことがわかり救われた思いでした。みんなと同じように高校へ行けるの？学校が大好きでお友達が大好きな娘に対して明るい未来が見つかりました。凄く嬉しかったです。

小学校の支援学級に在籍のお友達はなぜか中学校はいじめられるからと支援学校の中等部にみんな行ってしまいました。少し不安もありましたが中学校は入学1年ぐらい前から相談に行き、入学3か月前に中学校の教員全員の前で娘のことを話す機会を作ってください入学前から準備を整えてくださいました。お蔭で娘に合った支援を考えてくださり娘は楽しい嬉しい大好きで中学校を通えました。チェロを自宅からわざわざ持ってきてくださって娘の為だけに週に何回か演奏を聞かせてくださりリラックスさせて下さった先生もいてくださりました。チェロの音色は脳にとってもいいとのこととても有り難かったです。ほとんどクラスで過ごしていましたが数学の授業は取り出してもらって娘の力を伸ばせるよういろいろ工夫して訓練してくださいました。

生徒がしっかりしていて、先生に言われて決めるのではなく生徒が中心で色んなことを決めていく中学校だったので、自ずと娘も横に支援の先生付いてもらってですが授業で発表したり、先生に当てられて答えを発言したり周りからこっそり教えてもらったり、娘の存在はみんなと同じで当たり前で普通でした。

高校受験の対策で試験に自分で記入することや面接の練習もしてくださり楽しい安心した学校生活を過ごしていました。が家庭は娘に申し訳ないほど大変で、DVは我慢すればするほどエスカレートしてきて娘も私も毎日おびえて暮らすようになっていました。中学3年の春ごろいつもニコニコ笑ってた娘が笑わなくなりました。食べるのが大好きな娘が学校で昼食を吐くのでみんなと一緒に食べさせるのが難しい、このままでは修学旅行も一緒にご飯食べられないと先生に言われ、初めて事の重大さを知りスクールカウンセラーに相談しました。それは娘さんの問題ではなく、DVだから逃げなさいと言われ、お母さんが死んだら誰が娘さんを育てますかと言われ啞然としました。今まで娘が楽しく学校生活送れるようにと必死に生活してきたのに結局娘を悲しませることになっていたことに気づきました。そこを離れるしかなかったです。誰にも告げずみんなとお別れするのは娘にとってすごく辛いことでその日は学校で号泣していたようです。高校受験前に転校なんて、修学旅行も行けないなんて娘に申し訳なくて申し訳なくて仕方ありませんでした。何とかできないかと思いましたがそれしか選ぶ道はなかったです。でも家を離れたことで娘の笑顔が戻り、私も娘も安心して生活できるようになりました。その頃オリンピックで金メダ

ルのことをテレビで見た娘は中学校の先生が作ってくれた厚紙の金メダルをいつも首からかけてました。大好きな中学校の楽しかったことを思い出していたのでしょうか。娘はワクワクドキドキ嬉しい楽しい大好きを自分で見つけるのが得意です。家を出てネットもなくて暇だったんだと思いますが i p a d で文字を入力するのを自分で練習し出し自分の気持ちのような文を入力するようになってました。楽しそうに入力してました。ここまでできるようになるとは思ってなかったです。

娘は2学期から新しい中学校に転校しました。勝手が違うので戸惑ったと思いますが、それでもやっぱり娘はみんなと通える学校が大好きなので嬉しそうに通学してくれました。2クラスしかなかったのでどちらのクラスの子も娘に声をかけてくれたり、転校して不安な娘を笑わせようとしてくれました。結果学年がまとまったと先生に反対にお礼を言ってもらえました。以前は高校受験して新しい環境に行くのは大丈夫かなと内心心配してましたが、こんな急な転校でここまで頑張ってる娘を見て心配はいらなないと娘からパワーをもらいました。転校した先の中学校は2学期3学期で卒業になりましたが高校受験に向けてテストの受け方や応募書類の作成、面接指導などしてくださりました。クラスメイトとも仲良くなり楽しく過ごせました。

高校受験は自立支援コースの高校が第一志望でしたが面接で突然娘は踊りだしたりで、倍率も高くダメでした。その後定員割れの高校を探し家からはかなり遠いけどどうしても高校生活を送らせてやりたかったので受験しました。受験は別室でいつもの支援の先生が横にいて受験できましたが娘は体幹機能の遅れで文字がうまく書けないのですがその配慮は受けられませんでした。ただ5教科の試験はちゃんと椅子に座り立ち上がることなく受けたそうです。もし立ち歩いてたらどうなったか。娘の頑張りを褒め称えました。

高校は今までの義務教育と違い先生が障がい児に対してあまり知識がなく、なぜ高校に入学してきたのかも不思議に思われてるようで何をするのも危険だから、安心安全を最優先でと言われました。娘は学校が大好きで楽しいから入学したんだと先生に言っても、「高校は楽しいだけで来るところじゃないんです」と学年主任に言われました。体育の授業で大好きなプールにも初め入れてもらえずで、何人もの先生にこじつけの理由を言われました。北河内連絡会の方と障大連の方と話し合いし府教委にも訴えに行きました。府教委もわかってくださり学校に指導してくださりプールは入れるようになり先生の態度がコロコロと変わりました。元々定員割れしてる学校なので大変な生徒が多く先生方も遅くまで残り大変だったようですが。授業もノートをとらないと点数上げられないと言われましたが娘が i p a d で入力できるようになってたので授業中の板書は i p a d を認めてもらいました。先生たちは理解なくても、救いだったのは生徒たちは娘に優しくしてくれてました。高校の授業中寝てる子もいたのですが娘も真似して寝たりお菓子もらったり楽しそうでした。クラブ活動は北河内連絡会の阪本さんがクラブに付き添ってくださり2年生からやっとダンス部に入部させてもらえました。遠足や修学旅行で楽しい思い出たくさんできました。かけがえのないお金を払っても経験できない貴重な経験を学校生活で沢山できました。高校で娘のことを邪魔者扱いする先生にひどいこと言われたりむかつくこともいっぱい

いありましたが、今思うことは、何もかもが本当に楽しかっただけです。娘も同じだと思います。本当はまた学校に通いたいなと娘も思ってると思います。学校卒業して幼稚園、小学校、中学校、高校のありがたさが分ります。あっという間でした。

高校卒業してからが本当に長いです。何をしていけばいいのか、答えがなくて不安になるときもあります。この先どうしていったらいいのか悩むときもあります。

でもきっとよくわからないけど大丈夫だと思ってます。6年前は想像もできなかったステキな未来を自由に楽しく豊かに生きられてるからです。

娘のワクワクドキドキ嬉しい！楽しい！大好き！に付き合いながら二人でいろんなことがある今を楽しみます。